



内科・胃腸科・呼吸器科・放射線科

ゆとりが丘クリニック 便り

〒020-0638 岩手県滝沢市土沢541番地

TEL 019-699-1122 / FAX 019-699-1121

平成31年1月26日(2019) 第0068



『肩書と服装』

院長

私はりっぱな肩書を持っている人があまり得意ではない。「職業」という肩書も含めて苦手である。何故かと言うと「肩書」に頼って物事を言う人で、あまり良い人に出会ったことがないからである。私もこの仕事上、年を経るにつれていくつかの肩書を押し付けられているが、心底迷惑である。

ついでに言うておくが、私は自分のものも含めて名刺も嫌いで、必要に迫られて初めて名刺を持ったのはごく最近のことである。何故か子供の頃から自分の名前が他人に知られることが嫌で、勤務医時代も名札を付けないようにしていた。

開業して間もなく、胸に何かわからないが金ピカのバッチを付けたりっぱな身なりをした70代の男性が当院を受診し、私に自分の名刺を差し出して言った。「先生はおいくつですか？どこの御出身ですか？大学はどこですか？どこの病院から開業されたのですか？医学博士学位はお持ちですか？専門医の資格はありますか？」と矢継ぎ早に質問をする。いつも患者さんに言われるが、見かけよりは年はくってるし、有名大学を出ているわけでもなく、医学博士といってもそれ程りっぱな論文でないことは自覚している。専門医だって普通に研修して臨床経験を積めば合格出来るような試験だったと思っている。いったいこの人は何を知りたいのか？と思いながらなんとか聞いていた。考えてみると、この患者さんの主訴は軽い下痢程度なので、整腸剤を処方してさっさと帰っていただきたいと思った。待っている次の患者さんのことも気になる。

そうこうしているうちに、彼はやおら胸元から小学校の同級会とやらの写真を取り出して、私に説明する。「この人は〇〇大学で教授を務めた人で、この人は県会議員をやった。この人はあの有名な〇〇会社の部長をしていた等々。」「それがどうした！」という気持ちになったが、これも開業医の仕事かと我慢した。しかし、あまりに話が延々と続くものだから思わず言うてしまった。「ところであなたのその話と今回の下痢はどんな関係があるんですか？」患者さんはいきなり怒って立ち上がり「失敬な！！」とそのまま受付も寄らずに帰ってしまった。そんなこともあって、私はりっぱな人はあまり得意ではない。できればりっぱな人とは関わらないでこの先も行きたいと思っている。

隣で家内が「そんな考え方自体が偉そうだと私は思うけどね。」とか言っている。とりあえずこの人をどうにかしてもらいたい。

2月休診・診療時間のお知らせ

(日曜・水曜・祭日は休診日です) **平成31年2月**

★ 2月 2日(土) 午後休診

県医師会 都市医師会長
協議会 出席の為

★ 2月 8日(金) 午後受付17時まで

県央保健所 地域医療構想
調整会議 出席の為

★ 2月23日(土) 午後休診

研修会 出席の為



日	月	火	水	木	金	土
					1	2 ★
3	4	5	6 午前検査外来	7	8 ★	9
10	11	12	13 午前検査外来	14	15	16
17	18	19	20 午前検査外来	21	22	23 ★
24	25	26	27	28		

※都合により変更になる事がございます。ご了承ください。

○=休診日 ★=診療時間変更

過活動膀胱とは

おしっこに関する機能には、排尿(尿を出す)と蓄尿(尿を貯める)があります。その際に起こる様々な症状を「下部尿路症状」と呼びますが、その一つとして「過活動膀胱」があります。

主な症状は、急におしっこがしたくなり、漏れそうで我慢できない(尿意切迫感)、トイレに行く回数が多い(頻尿)や夜中寝ているときにおしっこで何度も起きる(夜間頻尿)、急におしっこがしたくなるだけではなく、トイレまで我慢できずに漏れてしまう、いわゆる尿漏れ(切迫性尿失禁)です。

日本排尿機能学会『過活動膀胱診療ガイドライン』*によると40歳以上の日本人男女で過活動膀胱がある人は14.1%、患者数は1,000万人以上と推計されています。

*日本排尿機能学会 過活動膀胱診療ガイドライン作成委員会編
過活動膀胱診療ガイドライン第2版, Rich+Hill Medical 東京, 2015



生活習慣病や 高齢者のQOLにも関係

症状の発生には、肥満・高血圧・脂質異常・耐糖能異常などのメタボリック症候群が直接、あるいは間接的に関わっていることがわかってきました。生活習慣病の中でも高血圧を持つ女性に過活動膀胱の重症例が多くなっています。

また、過活動膀胱は高齢者の生活の質(QOL)を損なうことが知られており、高齢社会を迎えている日本では、その治療に取り組むことは高齢者の健康寿命の観点からも重要です。

恥ずかしがらずに相談を

治療については、男性では前立腺肥大症が原因の場合もあり、患者さんの状況にあわせて薬が使われます。体重を減らすと尿もれが改善するという研究結果も報告されています。尿トラブルの症状を軽くするため、膀胱や骨盤底筋を鍛える方法も併用します。

女性の方は恥ずかしさから泌尿器科を受診するハードルが高く、多くの患者さんは、高血圧のように他の病気で受診されている、かかりつけ医の先生に排尿に関する症状を診てもらいたいとの希望を持っているようです。上のような症状に心当たりがあるときは、かかりつけ医に相談し、必要があれば専門機関を紹介してもらいましょう。

そのおしっこの症状、
過活動膀胱かも!

指導：福井大学医学部泌尿器科学 教授 横山 修
(日本医師会「日医ニコース」健康ひろさNo.513)より抜粋

このマガジンは当クリニックホームページ(クリニック便り)でもご覧になれます。

ゆとりが丘クリニック

検索